

令和5年4月20日(木)

## 学校は何のために行くのか

学校とは、勉強をしに行く場所です。それは確かなことなのですが、実は勉強以外の意味がとても大きいのです。それは、「毎日、他の人と関わりに行くこと」です。そのことに意味があるのです。

学校にはルールがあります。そのルールの中で生活し、集団の一人として、他の人たちとそれなりにうまくやっていく力を養うのです。

学校には、いろいろな人が集まっています。育った環境や性格、ものの考え方が違う人たちの集まりです。気の合う人もいれば、意見が合わない人もいます。

学校は小さな社会です。その一員として、いろいろな出来事がある中で何とかやっていくのは、社会という場で生きていくための練習、予行演習なのです。

毎朝学校に行って授業を受けて、友達同士で笑ったり怒ったり、悩んだり、泣いたりして、面白くはないテスト勉強をこなしたりして生活する。ただ、毎日そこにいるだけでもいいのです。何となくでも学校に通っていると、社会で生きるコツがつかめるようになります。それが学校に行くこともメリット、一番大きな意味です。

皆さんは雑踏、人混みを歩いたことがあると思います。大勢の人が行き交う夏祭りなど、あんなに人が多いのに、みんな平気な顔をして行き交っています。小さい子どもは雑踏を歩くことは難しいでしょう。しかし、皆さんは平然と、何気なく歩くことができるはずです。特別な技術は要りません。

必要なのは、「慣れ」です。人との距離感。人との間合い。スピード。そういうものに慣れたら、雑踏を歩き交うことができるようになるのです。人間関係に慣れることは、それと似ています。ですから、学校に通って、距離感に慣れましょう。